

眼瞼周囲の浮腫における柴苓湯の有効性

けやまクリニック形成外科(高知県) 毛山 剛

眼瞼浮腫は局所の冷却や圧迫で経過をみることが多いが、長期にわたると患者QOLの低下をきたすことから適切な介入による早期の効率的な改善が求められる。柴苓湯は抗炎症作用、内因性副腎皮質ステロイドの分泌促進作用、抗線維化作用に加え利尿作用と多彩な作用を有する漢方薬であり、嚢腫性痤瘡やケロイド・肥厚性瘢痕など皮膚疾患の治療にも応用されている。本稿では、遷延した眼瞼浮腫や術後の眼瞼浮腫に柴苓湯を用いることで、速やかな改善効果が得られた3症例を紹介し、文献的な考察を加えた。

Keywords 眼瞼浮腫、術後浮腫、瘢痕、柴苓湯

はじめに

眼瞼の皮膚は体内で最も薄く、皮下組織は疎性で脂肪もほとんどない。そのため、外傷や手術などによる侵襲を受けた場合や、感染や炎症を生じた場合は容易に眼瞼浮腫を生じる¹⁾。眼瞼浮腫に対しては局所の冷却や圧迫で経過をみる人が多いと思われるが²⁾、何日間も眼瞼の冷却や圧迫を継続することは患者のQOL(quality of life)を下げることになり得る。また、長期に経過を見てもなかなか浮腫が改善しないこともあるため、その場合は何らかの治療が必要になる。筆者は以前より、冷却や圧迫で改善しない眼瞼浮腫の患者や、術後の眼瞼浮腫を少しでも早く改善させたいという患者に対して柴苓湯を積極的に投与している。比較的良好な結果が得られた3例を、文献的考察とともに報告する。

症例1 63歳 女性

【現病歴】 初診の5週間前より右上眼瞼の腫脹と発赤を認めたため、近医眼科を受診したところ、帯状疱疹と診断され抗ウイルス薬の内服が処方されたが改善しなかった。その後、抗生剤内服・medium/mildクラスのス��ロイド軟膏の外用にて経過を見るように説明されたが改善しないため当院を受診した。

【現 症】 上眼瞼に浮腫と発赤を認めた(図1a)。疼痛はなく、軽度の痒痒と熱感を伴っていた。

【治療および経過】 遷延している眼瞼浮腫と診断し、柴苓湯エキス細粒 8.1g/日の内服を開始した。柴苓湯を開始して7日目の時点で浮腫と発赤は軽快し、患者の満足を得られたため柴苓湯の内服を中止した(図1b)。使用期間中の副作用は認めなかった。

症例2 61歳 女性

【現病歴】 前額部に生じた長径18mmの皮膚良性腫瘍に対して手術目的に当院を受診した。局所麻酔下に腫瘍を切除、単純縫縮し1週間後の再診を指示したが、術後3日目に両眼瞼浮腫を訴え再診した。

【現 症】 上眼瞼・下眼瞼ともに著明な浮腫を認めており、右上眼瞼に関しては上眼瞼溝(重瞼線)が視認できない状態であった(図2a)。

図1 症例1



a 初診時: 右上眼瞼の浮腫と発赤を認める



b 柴苓湯開始7日目: 浮腫と発赤は軽快している

図2 症例2



a 術後3日目: 両上下眼瞼の著明な浮腫を認める



b 術後7日目(柴苓湯内服開始から4日目): 浮腫は消退している

【治療および経過】 術後の眼瞼浮腫であるため経過観察も勧めたが、患者は浮腫の早期改善を強く望んでいたため柴苓湯エキス細粒 8.1g/日の内服を開始した。柴苓湯を開始して4日目(術後7日目)の時点で上眼瞼・下眼瞼ともに浮腫は消退し、患者の満足が得られたため柴苓湯の内服を中止した(図2b)。使用期間中の副作用は認めなかった。

症例3 59歳 女性

【現病歴】 初診の数年前より右眉毛外側に黒色結節が生じ、徐々に増大してきたため近医皮膚科を受診した。皮膚生検にて基底細胞癌と診断され、拡大切除目的に当院を紹介受診した。

【現 症】 右眉毛外側に長径8mmの黒色結節を認めた(図3a)。

【治療および経過】 基底細胞癌に対して拡大切除と皮弁による再建手術を予定した。患者に、術後に眼瞼周囲の浮腫が生じる可能性が高い旨を説明したところ、予防的な柴苓湯の内服を希望した。そのため、手術2週間前より柴苓

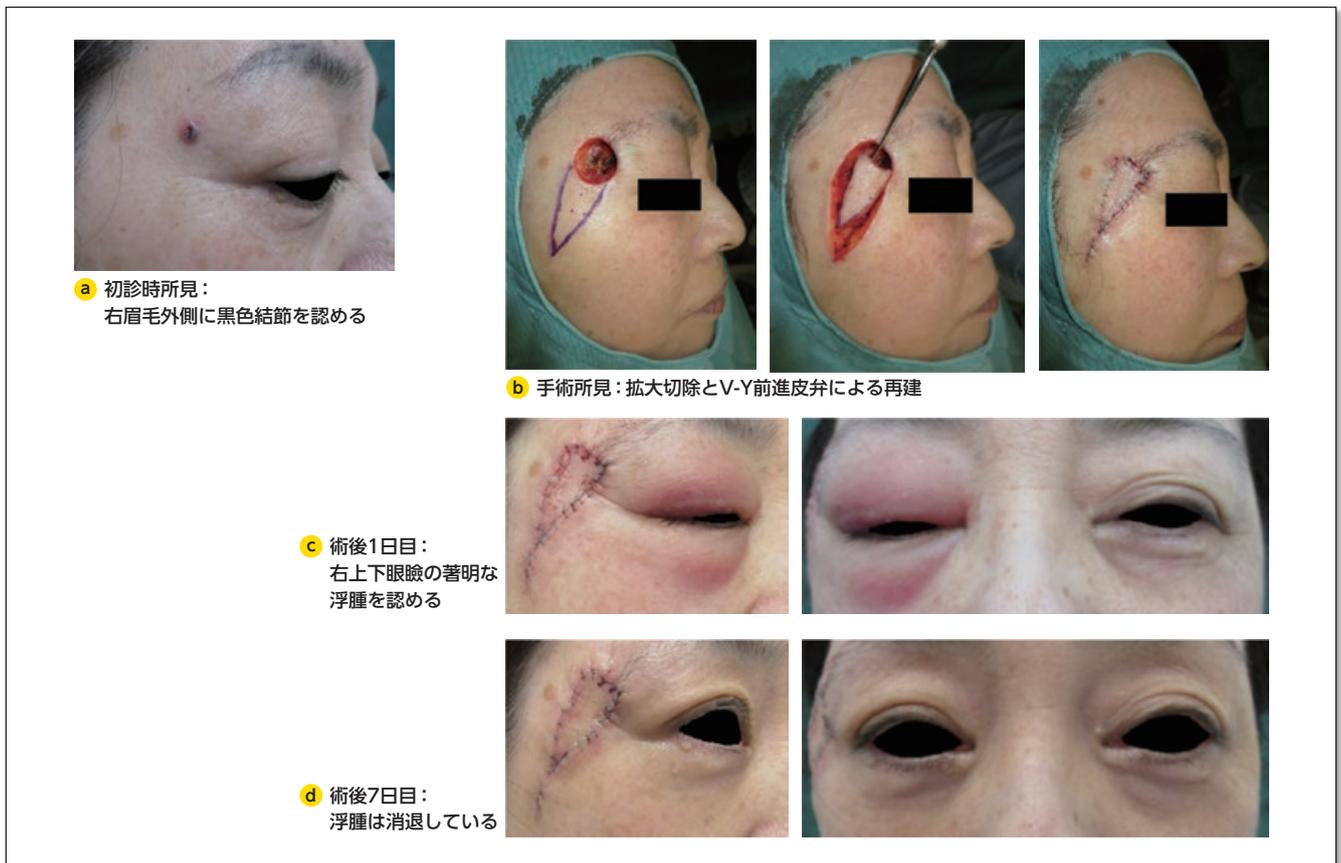
湯エキス細粒 8.1g/日の内服を開始した。局所麻酔下に黒色結節より5mmの切除マージンを付けて皮下脂肪を含めて切除した。皮膚欠損部に対して、尾側からのV-Y前進皮弁で再建した(図3b)。術後1日目の時点では右上下眼瞼の著明な浮腫を認めたが(図3c)、術後7日目の抜糸の時点で浮腫は消退した(図3d)。使用期間中の副作用は認めなかった。

考 察

皮膚に手術や外傷による傷害が加わった時、瘢痕となって治癒するが、創傷治癒が遅延すると、肥厚性瘢痕やケロイドといった状態となり患者のQOLを障害する可能性がある。一般的に、肥厚性瘢痕やケロイドの症状としては自覚的症状に痒痒・疼痛があり、他覚的症状としては隆起・硬結・潮紅などがある。[ケロイド・肥厚性瘢痕 診断・治療指針2018]³⁾でも、これらの症状を評価して点数化するJSW Scar Scaleが提示されている。

肥厚性瘢痕やケロイドの治療として、痒痒・疼痛に対し

図3 症例3



てはトラニラストの内服が、隆起・硬結に対してはデプロドンプロピオン酸エステル製剤の貼付が効果的である³⁾。しかし、日常診療で外傷や手術後患者の癍痕を診察していると、こういった症状だけでなく「浮腫」を訴える患者を診ることがある。特に、顔面外傷や眼瞼下垂の術後などに生じる眼瞼周囲の浮腫や、交通事故による下肢外傷の患者に生じる下腿浮腫などが多い。患者は浮腫を気にして早期に改善させたいと思っても、現実的には経過観察で済まされている場合も多いと思われる。しかしながら、トラニラストやデプロドンプロピオン酸エステル製剤には浮腫を改善させる効果はない。

今回使用した柴苓湯は、小柴胡湯と五苓散の合剤であり、抗炎症作用、内因性副腎皮質ステロイドの分泌促進作用、抗線維化作用、利尿作用などを有する^{4, 5)}。これにより、肥厚性癍痕・ケロイドの症状を改善させる効果があり、「ケロイド・肥厚性癍痕 診断・治療指針2018」³⁾にも記載されている。先行研究では^{6, 7)}、柴苓湯はトラニラストと比較して遜色ない症状改善度を有し、副作用発現率は同程度以下だったという報告もある。ただし、自験例ではみられなかったが、柴苓湯の副作用として間質性肺炎や偽アルドステロン症などの発現に注意が必要である。

柴苓湯の特記すべき点として、利尿作用を有しており「浮腫」を改善させる効果がある。Morimotoらは⁸⁾、眼瞼下垂の患者に術直後より柴苓湯を8週間投与し、術後の浮

腫の改善度を評価している。これによると、対照群では術後の眼瞼浮腫は最大8週間持続したのに対して、柴苓湯投与群では眼瞼浮腫は8週間の時点でほぼ解消されていた。また、五十嵐は⁹⁾、整形外科領域での下肢の外傷・手術後の患者に柴苓湯を投与し、健常肢と患肢の周径の差を経時的に評価している。非投与群では下肢の腫脹が消失するのに平均59.4日間かかったが、柴苓湯投与群では平均15.8日で腫脹が消失しており、非投与群に比べ1/4の期間で消退していた。

今回、遷延した眼瞼浮腫や術後眼瞼浮腫に対して柴苓湯が有効であった3症例を報告した。症例1は、原因不明の遷延する眼瞼浮腫であった。発赤を伴っていたため何らかの炎症に伴う浮腫と判断し、利尿作用だけでなく抗炎症作用を有する柴苓湯を投与することで、それまで1ヵ月間変化のなかった浮腫が7日間で改善した。症例2は、前額部の皮膚良性腫瘍術後の眼瞼浮腫であり、そのまま経過観察をすることも考慮したが柴苓湯を投与することで速やかな浮腫の改善がみられた。症例3は、眼瞼周囲の皮膚癌の症例であり術後の眼瞼周囲の浮腫は必発と思われた。そのため、術前より予防的に柴苓湯を投与することで術後速やかに浮腫の改善がみられた。

以上より、炎症による浮腫や術後の眼瞼浮腫において、効率的に浮腫を改善させる効果は西洋薬には乏しいため、柴苓湯を用いることは選択肢の一つになると思われた。

【参考文献】

- 1) 伊藤 隆: 解剖学講義. 南山堂, 第1版: 549-553, 1983
- 2) 村上正洋 ほか: 超アトラス眼瞼手術-眼科・形成外科の考えるポイント-. 全日本病院出版会, 第1版: 9-23, 2014
- 3) 癍痕・ケロイド治療研究会 編: ケロイド・肥厚性癍痕 診断・治療指針2018. 全日本病院出版会, 第1版: 32-33, 2018
- 4) 松田宗人 ほか: 柴苓湯の利尿作用. 和漢医薬学会誌 10: 204-209, 1993
- 5) 中野頼子 ほか: 柴苓湯によるヒト視床下部-下垂体-副腎系への影響. ホルモンと臨床 41: 725-727, 1993
- 6) 馬場 奨 ほか: 頭頸部外科領域手術後の肥厚性癍痕発生に対する柴苓湯の予防効果. トラニラストとの比較. Prog Med. 28: 2977-2982, 2008
- 7) 平松幸恭 ほか: ケロイド・肥厚性癍痕に対する柴苓湯の有用性について. 日本形成外科学会誌 28: 549-553, 2008
- 8) Morimoto N et al.: The Effectiveness of Saireito, a Traditional Japanese Herbal Medicine, in Reducing Postoperative Edema after Acquired Ptosis Surgery: A Prospective Controlled Trial. Evid Based Complement Alternat Med: 1-8, 2018
- 9) 五十嵐 一郎: 外傷および手術後の下肢腫脹に対する漢方療法の臨床的検討. 整形外科 44: 127-131, 1993